

2021年第10回村上春樹国際シンポジウム

村上春樹文学における「逸脱」(deviation)

プログラム

会 場 新型コロナウイルスのため、オンライン参加のみ
 進行形式 両会場ともオンラインによる参加可 (ビデオ会議システムとしてMS Teamsを利用)
 時 間 2021年6月5日(土)・6月6日(日)
 申込み先 <http://enroll.tku.edu.tw/course.aspx?cid=TFJX20210605>
 申込締切 2021年05月31日(月) 22:00までに



* 以下は全部台湾時間(日本・韓国は台湾より1時間進んでいます。)

1 日目・2021年6月5日（土曜日）				
0920-0930	オンライン会議室の入室開始			
0930-0950	開会式 online	会 場 オンライン会場A		
		開会挨拶 曾 秋桂（淡江大学教授兼村上春樹研究センター長・日本語文学科主任）		
		吳 萬寶（淡江大学外国語学部学部長）		
		村嶋 郁代（公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長）		
		司 会 樋口 達郎（淡江大学助理教授）		
0950-1000	休憩時間			
1000-1100	基調講演 1 online	会 場 オンライン会場A		
		司 会 黄 翠娥（輔仁大学教授）		
		題 目 逸脱するメタファー ―村上春樹のノによる修辞学―		
		講演者 中村 三春（北海道大学教授）		
1100-1200	基調講演 2 online	会 場 オンライン会場A		
		司 会 頼 錦雀（東呉大学特聘教授）		
		題 目 村上春樹の小説における《人格》と《キャラクター》の逸脱-『騎士団長殺し』を中心に-		
		講演者 金水 敏（大阪大学教授）		
1200-1300	昼食時間			
1300-1305	セッション 1 online	会場 オンライン会場A	セッション 2 online	会場 オンライン会場B
		コメンテーター 范 淑文（台湾大学教授）		コメンテーター 内田 康（京都府立大学共同研究員）
1305-1325		曾 秋桂（淡江大学教授）		山根 由美恵（山口大学准教授（特命））
	創作パターンの「逸脱」から見た『一人称単数』の装置 ―村上春樹の意識の、あるいは魂のずっと深い場所に目を向けて―		原作からの〈逸脱〉 ―森泉岳土「蜃」（漫画）における〈削除〉の戦略―	
1325-1345		樋口 達郎（淡江大学助理教授）		萩原 桂子（岡山理科大学教授）
	「逸脱」する短歌 ―村上春樹「石のまぐらに」小考―		村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』における逸脱	
1345-1355		質疑応答		質疑応答
1355-1400	休憩時間			
1400-1405	セッション 3 online	会場 オンライン会場A	セッション 4 online	会場 オンライン会場B
		コメンテーター 林 慧君（台湾大学教授）		コメンテーター 林 立萍（台湾大学教授）
1405-1425		頼 錦雀（東呉大学特聘教授）		権 慧（早稲田大学助教）
	『約束された場所で underground 2』における逸脱		東アジアにおける『騎士団長殺し』版本研究	
1425-1445		落合 由治（淡江大学特聘教授）		藤城 孝輔（岡山理科大学講師）
	村上春樹作品における逸脱 ―質的量的研究による探究―		映画批評から受ける靈感 ―村上春樹『騎士団長殺し』と鈴木清順―	
1445-1455		質疑応答		質疑応答
1455-1505	休憩時間			
1505-1510	セッション 5 online	会場 オンライン会場A	セッション 6 online	会場 オンライン会場B
		コメンテーター 周 玉慧（中央研究院研究員）		コメンテーター 林 雪星（東呉大学教授）
1510-1530		范 淑文（台湾大学教授）		清水 泰生（同志社大学嘱託講師）
	村上春樹文学に逸脱している女性ら ―漱石文学の女性の痕跡として見なせるか?―		村上春樹のランニングと文学活動、ことば ―スポーツ学、医学、生理学の視点から―	
1530-1550		余 盛延（台北科技大学教授）		阿部 翔太（広島大学博士課程後期）
	Deviation from Nature, Humanity, and Normality: Dual Moons, Religious Aberration, and Parent-Child Discord in Haruki Murakami's 1Q84		〈小説家〉からの逸脱 ―ラジオDJ、あるいは音楽家としての村上春樹―	
1550-1600		質疑応答		質疑応答

主 催 淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語文学科
 共 催 科技部・台湾日本語教育学会・台湾日本語文学会
 後 援 日本台湾交流協会台北事務所



2021年第10回村上春樹国際シンポジウム

村上春樹文学における「逸脱」(deviation)

プログラム

会場 **新型コロナウイルス拡大のため、オンライン参加のみ**
 進行形式 両会場ともオンラインによる参加可 (ビデオ会議システムとしてMS Teamsを利用)
 時間 2021年6月5日(土)・6月6日(日)
 申込み先 <http://enroll.tku.edu.tw/course.aspx?cid=TFJX20210605>
 申込締切 2021年05月31日(月) 22:00までに



* 以下は全部台湾時間 (日本・韓国は台湾より1時間進んでいます。)

2日目・2021年6月6日(日曜日)			
0950-1000	オンライン会議室の入室開始		
1000-1100	基調講演3 online	会場 オンライン会場A 司会 頼 振南 (輔仁大学教授) 題目 村上春樹文学の世界における逸脱 講演者 沼野 充義 (名古屋外国語大学副学長)	
1100-1105	休憩時間		
1105-1110	セッション7 online	会場 オンライン会場A コメンテーター 邱 若山 (静宜大学教授)	セッション8 online
1110-1130	齋藤 正志 (中国文化大学教授)	高橋 龍夫 (専修大学教授) *招待発表	
1130-1150	「脚」の〈逸脱〉性 —主として「ハイヒール」と『国境の南、太陽の西』—	「海辺のカフカ」における小説からの〈逸脱〉 —20世紀日本へのレクイエムとして—	
1150-1200	石川 隆男 (台湾大学講師)	井庭 崇 (慶應義塾大学教授) *招待発表	
1200-1300	昼食時間		
1300-1305	セッション9 online	会場 オンライン会場A コメンテーター 黄 如萍 (高雄餐旅大学准教授)	セッション10 online
1305-1325	楊 琇嫻 (南台科技大学准教授)	ダルミ カタリン (広島大学助教)	
1325-1345	村上春樹「眠り」論 —く私は逸脱しているのか—	日本語版からの逸脱 —『羊をめぐる冒険』から考える村上春樹文学と魔術的リアリズム	
1345-1355	王 佑心 (銘傳大学准教授)	佐古 恵里香 (京都精華大学非常勤講師)	
1355-1400	村上春樹「めくらやなぎと眠る女」を読む —伏線としての「逸脱」—	村上春樹「クリーム」における〈逸脱〉の一考察 —中上級日本語学習者の言語転移の観点から—	
1400-1405	質疑応答	質疑応答	
1405-1425	セッション11 online	会場 オンライン会場A コメンテーター 楊 琇嫻 (南台科技大学准教授)	セッション12 online
1425-1445	黄 如萍 (高雄餐旅大学准教授)	内田 康 (京都府立大学共同研究員) *招待発表	
1445-1505	〈逸脱〉としての「品川猿の告白」論	村上春樹「本のある空間をめぐる4つの断想」について —逸脱としてのテキスト—	
1505-1520	葉 菱 (淡江大学助理教授)	楊 炳青 (北京外国語大学准教授)	
1520-1530	村上春樹文学における日常生活からの逸脱	村上春樹文学における「逸脱」 —「象の消滅」における渡辺昇を中心に—	
1530-1630	質疑応答 (1445-1455)	鄧 波 (復旦大学准教授)	
1630-1700	質疑応答	村上春樹短編小説の初出誌と読者意識 —1980年代の「逸脱」を中心に—	
1700-1710	質疑応答	質疑応答	
1710-1715	休憩時間		
1715-1730	パネルディスカッション online	テーマ 村上春樹文学における「逸脱」(deviation) 会場 オンライン会場A 司会 曾 秋桂 (淡江大学村上春樹研究センター長)	パネリスト① 沼野 充義 (名古屋外国語大学副学長) パネリスト② 中村 三春 (北海道大学教授) パネリスト③ 高橋 龍夫 (専修大学教授) パネリスト④ 井庭 崇 (慶應義塾大学教授) パネリスト⑤ 鄧 波 (復旦大学准教授) パネリスト⑥ 范 淑文 (台湾大学教授)
1730-1740	総論討論		
1740-1750	閉会式 online	会場 オンライン会場A 閉会挨拶 曾 秋桂 (淡江大学教授兼村上春樹研究センター長・日本語学部主任) 司会 樋口 達郎 (淡江大学助理教授)	

主催 淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語学科
 共催 科技部・台湾日本語教育学会・台湾日本語文学会
 後援 日本台湾交流協会台北事務所

